【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第２部門第３区分
【発行日】平成30年11月22日(2018.11.22)

【公表番号】特表2017-533107(P2017-533107A)
【公表日】平成29年11月9日(2017.11.9)
【年通号数】公開・登録公報2017-043
【出願番号】特願2017-523496(P2017-523496)
【国際特許分類】
*Ｂ２４Ｄ　11/06　(2006.01)*
*Ｂ２４Ｂ　29/00　(2006.01)*
*Ｂ２４Ｂ　47/00　(2006.01)*
【ＦＩ】
Ｂ２４Ｄ　11/06　Ｂ
Ｂ２４Ｂ　29/00　Ｚ
Ｂ２４Ｂ　47/00

【手続補正書】
【提出日】平成30年10月15日(2018.10.15)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
ワークピースを加工するための処理要素（３ａ，２２ａ）であって、
前記処理要素は、複数の処理要素が、支持装置（２）上で前記支持装置の長手方向において前後に配置されるように設計され、
前記支持装置（２）は、循環運転可能であり、
前記支持装置によって、前記複数の処理要素（３ａ，２２ａ）を、表面処理のために、少なくともほぼ直線的に前記ワークピースを通過するように案内可能であり、
前記処理要素（３ａ，２２ｂ）は、前側に２つの突出した係合部分と、後側に形成された受入部分と、を有し、
前記係合部分及び前記受入部分は、前記支持装置上に前記処理要素が実装された状態で、前記支持装置上において１つの処理要素の前記係合部分が次の処理要素の前記受入部分に接触するように協働して、前記処理要素（３ａ，２２ｂ）の、前記支持装置（２）の長手方向に対する横方向への回転を阻止する、処理要素（３ａ，２２ａ）において、
前記支持装置（２）上に支え用の支え面を有する長方形の又はブロック形状の本体（１０，２２）が設けられていることと、
外向きにウエブ状に突出する横長のリブ（１３，１４，２７，２８）が、前記本体（１０，２２）の向かい合う平坦な長手側面に設けられ、前記リブ（１３，１４，２７，２８）が、前記リブ（１３，１４，２７，１８）間に配置される同一構成にされた処理要素（３ａ，２２ａ）に設けられた前記本体（１０，２３）の、対応する、向かい合う平坦な長手側面（１７，１８，２５，２６）に重なることと、
を特徴とする処理要素。
【請求項２】
請求項１に記載の処理要素であって、前記本体（１０，２３）は、直立して配置される複数の研削手段（３ｄ，３ｉ，２２ｉ，２２ｋ）を受容する凹部を有する受入領域（１２，２４）を備えることを特徴とする処理要素。

【請求項３】
請求項２に記載の処理要素であって、前記処理要素の前記受入領域（１２，２４）は、連続的な単一の凹部（１２ａ，２４ａ）を有することを特徴とする処理要素。
【請求項４】
請求項１～請求項３のいずれか一項に記載の処理要素であって、直立して配置される複数の研削手段（３ｄ，３ｉ）を受容する凹部（１２ａ）を有する受入領域（１２）を備えた、側方に突出した受入体（１１）が、前記本体（１０）に設けられていることを特徴とする処理要素。
【請求項５】
請求項１～請求項４のいずれか一項に記載の処理要素であって、前記リブ（１３，１４，２７，２８）は、所定の張り出しによって、前記本体の前面を越えて前方へ、前記支え面に平行な方向に突出することを特徴とする処理要素。
【請求項６】
請求項５に記載の処理要素であって、前記張り出しは、前記本体（１０，２３）の長さの２５％超であることを特徴とする処理要素。
【請求項７】
請求項１～請求項６のいずれか一項に記載の処理要素であって、前記本体（１０，２３）が、後方に同一配置された処理要素（３ａ，２２ａ）の前記リブ（１３，１４，２７，２８）の間に受容可能であるように、突出したリブ（１３，１４，２７，２８）を有する前面（１５）に対する前記本体（１０，２３）の後部において、前記リブ（１３，１４，２７，２８）が省略されていることを特徴とする処理要素。
【請求項８】
請求項７に記載の処理要素であって、処理要素（３ａ，２２ａ）が前後に配置された状態で、及び、処理要素（３ａ，２２ａ）が隣接配置される結果として、前記リブが、実装される前記処理要素（３ａ，２２ａ）間の距離と同等の間隔のみを有するように、前記リブ（１３，１４，２７，２８）は、前記長手側面（１７，１８，２５，２６）の前記後部において前記リブ（１３，１４，２７，２８）が設けられていない分と実質的に丁度同じ分だけ、前記前面（１５）に突出することを特徴とする処理要素。
【請求項９】
請求項１～請求項８のいずれか一項に記載の処理要素であって、前記リブ（２７，２８）の前方部（２７ａ，２８ａ）の形状は、前記リブ（２７，２８）の後方端部（２７ｂ，２８ｂ）の形状とマッチし、それにより、隣接する処理要素の前記リブ（２７，２８）同士は、マッチするように隣接配置されることを特徴とする処理要素。
【請求項１０】
直立して配置された処理手段を有する請求項１～請求項９のいずれか一項記載の処理要素が複数実装されたベルト状支持装置。
【請求項１１】
請求項１０記載のベルト状支持装置であって、
前記処理手段は、研削手段であることを特徴とするベルト状支持装置。